

**授業概要**

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。保育者、教師といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。知識の紹介にとどまらず、乳児院、養護施設、幼稚園、保育所、小学校、中学校といった教育・福祉現場での実際の子どもの姿も紹介する。

**授業計画**

第 1 回	発達, 発達段階, 発達課題, 発達理論とは
第 2 回	胎児期から新生児期の発達と特徴
第 3 回	乳児期の発達と特徴
第 4 回	乳児期の発達について映像資料を用いた学習と学習内容の記録
第 5 回	幼児期の発達と特徴
第 6 回	幼児期の発達について映像資料を用いた学習と学習内容の記録
第 7 回	児童期の発達と特徴
第 8 回	思春期の発達と特徴
第 9 回	障害の分類と特徴
第 10 回	障害の特徴について映像資料を用いた学習と学習内容の記録
第 11 回	障害児保育・教育の実際
第 12 回	社会福祉施設の役割と入所している子どもの特徴について
第 13 回	子どもを支える社会的資源
第 14 回	保育カウンセラーの職務と実際
第 15 回	まとめ
第 16 回	試験

**到達目標**

- 発達心理学の学びを通して、人間の心身の発達に興味を持つことができる。
- 受精から老年期までの人間の生涯発達の順序、課題といった重要事項を理解することができる。
- 生涯発達の中でも特に重要な乳児から思春期までの発達を詳しく理解することができる。

**履修上の注意**

- 学習意欲を持ち、予習・復習をした上で、授業に必ず臨むこと。
- 教えてもらうという受け身では無く、自分で学ぶという積極的な態度で受講すること。
- ペアワーク、グループワークを取り入れた共同学習を行う。

**予習・復習**

テキストの次回の学習箇所を最低3回音読してから授業に臨むこと。復習においても授業で学んだことを頭に浮かべながら再び教科書を3回音読すること。初めて聞いた言葉や発達心理学の専門用語については、事典を使って調べること。

**評価方法**

評価基準は授業への参加と発表(3割)、授業中の課題への取り組み(3割)、期末試験(4割)である。

**テキスト**

初回の授業で指示する。